

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370399

研究課題名(和文) 戒厳令解除と1990年代台湾文化の再編制 『島嶼邊緣』とその時代

研究課題名(英文) ISLE-Margin and Early 1990's Taiwan

研究代表者

三木 直大 (MIKI, Naotake)

広島大学・総合科学研究科・名誉教授

研究者番号：10190612

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：1990年代前半期に刊行された雑誌『島嶼邊緣』を中心に同時期の代台湾文化再編の動向について連携研究者と総合的に研究をすすめた。本雑誌は1987年の戒厳令解除後の文化再編成運動の中で市民社会論、ジェンダー論、LGBT問題などを中心に台湾社会が直面する課題をクローズアップし文化運動に展開していった雑誌である。(1)台湾学会分科会における分科会企画(2)国際シンポジウムの開催(3)90年代前半期にトピカルな活動を展開した作家等の個別研究(4)『島嶼邊緣』に掲載された論説や記事に関する研究を中心に作業を進め、その成果の一部を公表するとともに1990年代台湾文化を考える視点を提示することができた。

研究成果の概要(英文)：I focused on the research of the magazine "ISLE" published in Taiwan in the early 1990's. And with my colleagues, I studied the trend of cultural restructuring in Taiwan in the 1990's. In the process of cultural restructuring in Taiwan after the resolution of martial law enforcement (1987), "ISLE" covered issues faced by Taiwanese society, such as civil society theory, gender theory, LGBT problem. This study has approached this problem from the following four directions. (1) Two panels in The Japan Association of Taiwan Studies (2) Two international symposiums (3) Studies poets and writers on "ISLE" (4) Studies editorials and articles on "ISLE". Through these works, we have been enabled to provide in Japan the view points for the research into 1990's Taiwan cultures.

研究分野：中国語圏の現代文化

キーワード：1990年代台湾文化 雑誌『島嶼邊緣』 市民社会論 マイノリティ論 LGBT 地域研究

1. 研究開始当初の背景

雑誌『島嶼邊緣』は1991年10月に王浩威(精神科医)を発行人として創刊され、1995年9月の第14号で停刊している。本雑誌の編集委員、編集顧問、そして執筆者は外省人系知識人を中心に台湾の「族群」を跨いで実に多彩であり、現在の台湾文化界のオピニオンリーダー的存在の多数が名前をつらねている。

1987年の戒嚴令解除によって外省人たちの多くは政治的文化的マジョリティの位置から脱落するが、それは台湾社会の民主化の当然の帰結であり、外省人は若い世代を中心にそれを受け入れることになる。だが彼らにとって次に問題になったのは、本省人を中心とした台湾ナショナリズムの政治的高揚である。そのなかで外省人新世代の知識人たちは、そこから脱落していく台湾社会のマイノリティたちに目を向け始める。そこでの課題はジェンダー差別、セクシュアルマイノリティ差別、原住民差別、底辺労働者問題など多様であり、それは台湾社会のかかえている諸問題を表面化させることになる。

『島嶼邊緣』で提示されたそうした問題群は現在もなお未解決な課題を多く含んでいて、その検討は過去と現在の台湾を考えるうえだけでなく、今後の台湾を考える重要な手がかりになる。またそうした問題群は台湾だけでなく、東アジア全体の社会や文化の課題と通底している。ところが雑誌『島嶼邊緣』をめぐる日本での研究は皆無であり、台湾でもきわめて少ないところから、この研究に着手した。

2. 研究の目的

台湾では戒嚴令解除による自由化・民主化の過程で、1990年代に台湾文化の枠組みが大きく変容していく。自由化の進展は、自らをどのように位置づけるかという思想的課題を中心にして、本省人や外省人といった出自を問わず知識人たちに、専制政権下での台湾文化の意味体系(価値コード)の脱構築とあらたな構築を迫るのである。それが1990年代前半期の文化に先鋭的にあらわれる。その様相を当時の進歩的知識人たちの多くが関わった雑誌『島嶼邊緣』(1991~1995)の諸論説に焦点をあてつつ、その時代の文化表象を検討することによって考察しようとするものである。

3. 研究の方法

台湾文化研究に実績を持つ池上貞子氏(跡見学園女子大学)及川茜氏(神田外語大学)垂水千恵氏(横浜国立大学)三須祐介氏(立命館大学)山口守氏(日本大学)を連携研究者に位置づけ、また雑誌『島嶼邊緣』の編集顧問や編集委員、執筆者、さらに台湾の文化論研究者や文学者を研究交流者として位置づけ、研究をすすめた。具体的には主に以下の作業を行っている。

雑誌『島嶼邊緣』とその周辺の同時代雑誌である『當代』や『婦女新知』などの論説・

記事類の基礎的検討。

雑誌『島嶼邊緣』の編集委員や執筆者への聞き取りと研究交流。

雑誌『島嶼邊緣』とその時代をテーマとした学会分科会企画の設営。

台湾の研究者を研究交流者として、課題に関連する国際シンポジウムの開催。

雑誌『島嶼邊緣』に作品を発表した詩人・作家や、その周辺の文学者に関する研究。

雑誌『島嶼邊緣』で議論されたテーマに関する個別研究。

4. 研究成果

主たる内容を以下に箇条書きで示す。

日本台湾学会第16回学術大会(2014/5/24、東京大学)の分科会企画「『同志文学史』の政治学」(企画・三須/座長・三木)において阮慶岳氏(作家・元智大学教授)を招聘し、連携研究者の三須祐介氏が「読むことの快楽、書くことの政治学 林懷民「逝者」をめぐる」、三木が「記憶と現在 阮慶岳「広島の恋」をめぐる」と題した論文をそれぞれ発表し、同じく連携研究者の垂水千恵氏と山口守氏をコメンテーターとして、雑誌『島嶼邊緣』の主要テーマの一つであるクィア論を1990年代以降のセクシュアルマイノリティの文学と文化論に関連付けて検討した。

さらに5月26日に「阮慶岳シンポジウム：昨夜、不思議な人がそっと私に触れた」(CIC東京)と題した国際シンポジウムを台湾学会分科会に引き続いて開催し、研究協力者の橋本恭子氏(一橋大学特別研究員)が「同志文学」を書くこと/読むことの試み」と題した研究発表を行い、さらに連携研究者の池上貞子氏(跡見学園女子大学)と白水紀子氏(横浜国立大学)が加わり、雑誌『島嶼邊緣』と台湾におけるLGBTと文学の問題について検討した。

雑誌『島嶼邊緣』には1990年代台湾の文化状況をポストコロニアルとポストモダンの混合ととらえる論説がみられる。その具体相を検討する作業として連携研究者の池上貞子氏による『夏宇詩集』と同じく及川茜氏による『唐捐詩集』を、三木が編集委員を担当する台湾現代詩人シリーズ(思潮社)の翻訳詩集として、2014年12月に刊行した。

さらにその作業と関連付けて、2015年5月26日に国際シンポジウム「台湾現代詩のポストモダン」を開催した。そこでは台湾から『島嶼邊緣』の執筆者でもある鴻鴻氏(詩人、台北芸術大学)をはじめとして、唐捐(劉正忠)氏(詩人、台湾大学)林巾力氏(台湾師範大学)楊佳嫻氏(台湾大学)日本から野村喜和夫氏(詩人、評論家)四方田犬彦氏(比較文学者、元明治学院大学)を研究交流者として位置づけ、台湾のポストモダン文学について検討した。その内容については『現代詩手帖』(思潮社)第58巻第10号の特集「東アジアから考える」のほか、『アジア社会文化研究』第17号においても公開した。

日本台湾学会第 18 回学術大会(2016/6/21、宇都宮大学)での分科会企画「1990 年代台湾文化を再考する」(企画・三木)において雑誌『島嶼邊縁』の編集委員である洪凌氏(世新大学)を招聘し、三木が「1990 年代台湾文化再編成における雑誌『島嶼邊縁』の位置」、洪凌氏が「雑誌『島嶼邊縁』が目指したもののジェンダー・マイノリティ・ネイションをめぐって」と題した論文を発表し、連携研究者の垂水千恵氏と山口守氏をコメンテーターとして、『島嶼邊縁』の大きなテーマである台湾のナショナルアイデンティティとジェンダーをめぐると問題群について検討した。また洪凌氏をゲストとして「1990 年代台湾文化を読む」と題した関連する研究会を東京大学文学部(5月23日)と広島大学総合科学研究科(5月24日)で開催し、議論を重ねた。

2016 年 10 月 22 日に国際シンポジウム「前衛としての台湾文学：1990 年代文化論再考」を開催し(CIC 東京)、台湾から文学史家の陳芳明氏(政治大学)、『島嶼邊縁』の編集委員である紀大偉氏(政治大学)、日本から四方田犬彦氏を研究交流者として、雑誌『島嶼邊縁』と 1990 年代台湾文化再編成運動について議論した。その内容は「第 部 1990 年代台湾文化再考：雑誌『島嶼邊縁』から」(司会・三木)、「第 部 文学史、映画史を書く：陳芳明×四方田犬彦」(司会・山口守)、「第 部 もはや周縁ではない？：紀大偉に聞く台湾 LGBT 文学」(司会・垂水千恵)、「第 部 総合討論」(司会・垂水)の四部構成でおこなった。このシンポジウムの詳細については連携研究者として参加した三須祐介氏が「前衛としての台湾文学 1990 年代台湾文化再考(国際シンポジウム参加記)」(日本台湾学会ニュースレター第 32 号、2017)において詳しい報告をおこなっている。

またシンポジウムに先立って、陳芳明氏の代表的著作『台湾新文学史』の日本における翻訳出版(下村作次郎氏企画)に池上貞子氏、垂水氏、三木が参加し、下村氏(天理大学)、野間信幸氏(東洋大学)との共訳として、東方書店より上下巻として 2015 年 12 月に刊行している。

以上のような学会活動や国際シンポジウムの開催による成果に加え、代表者は雑誌『島嶼邊縁』の編集委員や執筆者に関わる個別の研究発表(張小虹、陳克華、鴻鴻など)のほか、『島嶼邊縁』をはじめとして『當代』や『婦女新知』の調査や関係者へ聞き取り調査などを通して、総論にあたる論文「雑誌『島嶼邊縁』と 1990 年代前半期台湾の文化論」(『アジアから考える』所収、2017)を発表し、戒厳令解除後の 1990 年代台湾の文化状況と、市民社会論や公共圏の問題などを根底にした文化論的テーマについて一定程度の検討を行うことができた。またこれまで日本では看過されてきた雑誌『島嶼邊縁』の重要性について提示することができたと考えられる。しかし『島嶼邊縁』とその時代については多くの検討す

べき課題があり、そのすべてを扱うことはできていない。また『島嶼邊縁』の研究から浮かび上がった 1990 年代後半期以降の台湾社会の変化と雑誌関係者たちの活動の展開や思想の変容につながる諸問題について検討する必要性も同時に浮かびあがってきた。そこから『島嶼邊縁』の活動時期を跨いで刊行されてきた雑誌である『當代』と『婦女新知』を中心にして研究の継続を計画している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

三木直大、サブカルチャーと政治の時代 張小虹『フェイク タイワン』を読む、東方、443 号、査読無、2018、33-37

三木直大、詩は市民の中へ、現代詩手帖、第 60 巻第 3 号、査読無、2017、152-153

三木直大、台湾の 1990 年代前半期と雑誌『島嶼邊縁』、植民地文化研究、15 号、査読無、2016、160-162

三木直大、台湾の 1990 年代を考えるために、アジア社会文化研究、17 号、査読有、2016、71-75

林巾力(三木直大訳)、台湾現代詩にとってポストモダンとは何か、アジア社会文化研究、17 号、査読有、2016、59-69

三木直大、台湾の 1990 年代から、現代詩手帖、第 58 巻第 10 号、査読無、2015、22-27

鴻鴻(池上貞子訳)、「美」の書き直しと文化交渉、現代詩手帖、第 58 巻第 10 号、査読無、2015、28-30

三木直大、阮慶岳短編小説の構造と「台湾同志文学史」の政治学、アジア社会文化研究、16 号、査読有、2015、49-70

[学会発表](計 4 件)

三木直大、1990 年代台湾文化再編成における雑誌『島嶼邊縁』の位置、日本台湾学会第 18 回学術大会、2016.05/21、宇都宮大学

洪凌(三木直大訳)雑誌『島嶼邊縁』が目指したもののジェンダー・マイノリティ・ネイションをめぐって、日本台湾学会第 18 回学術大会、2016.05/21、宇都宮大学

三木直大、記憶と原罪 阮慶岳『広島恋』をめぐって、日本台湾学会第 16 回学術大会、2014/05/24、東京大学

三須祐介、「読む」ことの快樂、「書く」ことの政治学 林懷民「逝者」をめぐって、日本台湾学会第 16 回学術大会、2014/05/24、東京大学

[図書](計 6 件)

三木直大(分担執筆)、アジアから考える：日本人が「アジアの世紀」を生きるために(水羽信男編、共著)、有志社、2017、288(62-81)

三木直大(分担執筆)、善男子的存在邏輯：陳克華文学論集(江寶釵編、共著)、文水出版

社(台北) 2016、368(247-282)
三木直大(分担共訳)台湾新文学史(陳芳明著) 東方書店、2015、下巻 555(1-63、266-281)他
池上貞子(編訳) 時間は水銀のごとく地に落ちる 夏宇詩集、思潮社、2015、205
及川茜(編訳) 誰かが家から吐きすてられた 唐捐詩集、思潮社、2015、219
三木直大(分担執筆)台湾近現代文学史(中島利郎・河原功・下村作次郎編) 研文出版、2014、542(391-424)

[その他]
なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

三木 直大 (MIKI, Naotake)
広島大学・大学院総合科学研究科・名誉教授
研究者番号：10190612

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

池上 貞子 (IKEGAMI, Sadako)
跡見学園女子大学・文学部・教授
研究者番号：10168114

及川 茜 (OIKAWA, Akane)
神田外語大学・外国語学部・講師
研究者番号：40646725

三須 祐介 (MISU, Yusuke)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：60339653

山口 守 (YAMAGUCHI, Mamoru)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：70210375

四方田(垂水) 千恵 (YOMOTA, Chie)
横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授
研究者番号：70251775

(4)研究協力者

橋本 恭子 (HASHIMOTO, Kyoko)
一橋大学・大学院社会言語研究科・特別研究員